

これでいいのか！「川口駅前まちづくりビジョン」の問題点

「川口駅前まちづくりビジョン」が採択されました。40年前の整備構想を受けて、今後の川口駅周辺の整備方針を定めるもので、社会の大きな変貌に対応するために必要な改善の方向性が含まれています。一方、様々な問題点を含んでいます。その費用は莫大になることが想定され、利用者の利便性の向上、費用負担のありかた、地元経済への影響などさまざまな視点での総合的な検討が必要です。

将来直面する現実に向き合わない長期計画

人口増加の実績だけがベース？

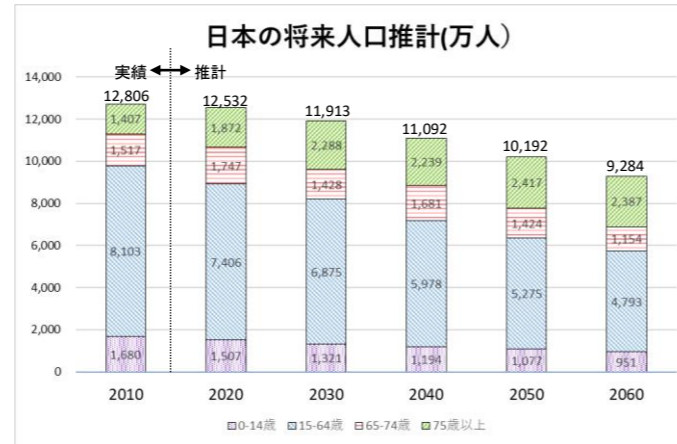
長期な計画を作る際に最も重要なのは、人口の増減や年齢構成です。今回のビジョンの欠陥は、市の人口が将来減少することを考慮していないことです。特に、インフラの整備には、整備に時間がかかることや多額の費用が必要であること、次世代にもその負担を求めていくことにあることから、将来ニーズを踏まえた検討が必要です。しかし、このビジョンではこれまでの人口増加傾向だけが強調されています。

本市の人口・世帯数の推移



出所: 「まちづくりビジョン」13 頁より

しかし、日本の将来人口は今後確実に減少していきます。この点について繰り返し質問し「国全体としては既に人口減少局面を迎えており」という記述が追加されましたが、いまだに人口増加が強調される内容となっています。



出所: 内閣府 HP。
日本の人口は、2040 年までに 11%、2060 年までに 27% の減少が予測されています。「第 5 次川口市総合計画」でも令和 12 年をピークに人口が減少すると予測されています。

川口駅への中距離列車の停車も取り組み方針のひとつとされています。200 億円とも言われる事業です。ニーズについての真摯な検討なしに進めることは許されません。

長期的な財政見通しを考えていない？！

将来人口の減少に伴い財政収入も減少します

ビジョンでは、2022 年度以降に「計画案の検討を進めていきます」(ビジョン 16 頁)としています。将来の川口市がその費用を負担していけるのかについての検討も必要ですが、そうした問題意識がありません。

人口の減少が進む中で、税収も減少していきます。現在あるインフラの維持管理にも多くの財源を充てて行かなければならないことを考えると、財源からの視点を含めた検討が不可欠です。

川口市の財政収入は中長期的にもほぼ横ばいに見込んでいるようです。さらに財源が不足した場合、国が地方交付税交付金制度を通じて補填してくれることを期待しているようです。しかし、地方交付税交付金制度は、自治体間の財政力の不均衡を調整するものにすぎず、赤字を補填するものではありません。

将来の財政収入について危機感を持って、インフラ投資の在り方を考えるべきです。

整備が必要なのは川口駅だけなのか？

市の均衡ある発展の視点がありません

川口市は、歴史的背景が異なる 10 地区で構成されています。しかし、これまで市政施行時に中心であった川口駅周辺に目を向けてきたという指摘されています。

今回のビジョンでは、川口駅周辺が対象となっていますが、市民が利用する駅は、西川口駅、東川口駅、蕨駅、SR 各駅など、川口駅だけではありません。

主要駅 (JR) の乗車人員 2019 年

川口駅	84,197 人
西川口駅	59,062 人
蕨駅	61,829 人
東川口駅	36,918 人

JR HP より

リリア改修に最大 125 億円 精査が必要

川口駅前にある川口総合文化センター (リリア) の改修するための設計を 2022 年度から 2 年間をかけて実施するための予算がとられました。改修費の詳細は設計の過程で固まって行くとされていますが、最大で約 125 億円とされています。築 30 年の施設であり改修は必要ですが、今後 30 年間のリリアの在り方と改修費用を含めた、検討が必要です。



リリア外観

拙速: 3 回の検討会で策定

このビジョンは「川口駅周辺まちづくりビジョン策定検討会」における計 3 回の検討だけで策定されました。市に長期にわたる影響を残すビジョンの策定として、十分な検討期間とは言えません。ビジョン作成が、再開発をするための手段であってはなりません。

市民の声を積み上げ慎重な検討が必要

いずれの事業も将来の川口を形づける重要なことなので、多くの市民の声を集めながら、丁寧に検討する必要があります。

美術館建設計画 迷走中？

川口市は 2021 年 6 月「川口市美術館建設基本計画」を策定し、川口駅東口の「川口市栄町 3 丁目」での建設を目指すとして明記されています。これに対し、3 月定例会で西口のリリアに隣接して建設したかどうかの提案がなされ、市長は「前向きに検討」していくと答弁しました。

美術館建設は当初から、その必要性も含めて批判されてきました。ここにきて設置場所の変更も検討するとは計画作成の意義を損なうものであり、市のガバナンスが問われる問題です。



「まちづくりビジョン」の対象範囲
出所: 「ビジョン 2 頁」より

こうした駅は利用者数に対する駅舎の能力不足、老朽化など、川口駅と同様に様々な課題を抱えています。

市は、「川口駅周辺まちづくりの経験を他の駅にも活かしていく」という説明をしていますが、それでは遅すぎます。全市のバランスをみながらの市政運営が強く求められます。